

「実はユダヤ系住民の多いニューヨーク」

蟬本 睦

＜衝撃を与えたハマスのイスラエル攻撃＞

10月7日、パレスチナ暫定自治区のガザ地区を実効支配するイスラム原理主義組織ハマスがイスラエルへの攻撃を開始。イスラエル側も報復攻撃を行い、メディアでは多くの死傷者を出している旨連日報道が続いています。

ホワイトハウスは他の欧州諸国と共同でハマスを非難する声明を即座に発表、バイデン大統領は10月18日にイスラエルを訪問、イスラエル側に立つことを即座に表明するなど、岸田首相が旧ツイッターで行った双方の自制を求めるといった、中立的とも思えるツイートと比べると米国はイスラエル寄りであることを鮮明に打ち出しています。

＜ニューヨークでも抗議活動＞

ハマスの攻撃以降、イスラエル総領事館前などニューヨークでもイスラエル攻撃を非難する主にユダヤ系住民によるデモ、これに反対するパレスチナを応援するイスラム教徒によると見られるデモが行われ、双方が警察を挟みこみ合いをするなど、緊張が高まりました。在ニューヨーク日本国総領事館は、「【注意喚起】ニューヨーク市内におけるイスラエル・パレスチナ武装勢力間の衝突に伴う抗議活動の発生について」と題した速報を発信し、在留邦人に対して注意を喚起しました。報道によれば双方に逮捕者も出ている模様です。

＜実はユダヤ系住民の多いニューヨーク＞

ウィキペディアなどによれば、ニューヨーク市には約160万人、周辺も入れれば200万人のユダヤ系住民が暮らしているようです。市の人口は833万人で、約2割の住民がユダヤ系ということになります。筆者は、多くの日本人駐在員も住む郊外の町に10年以上住みましたが、そこもユダヤ系の多い地域で、日頃からユダヤ教の祝日や行事などを経験することが多くありました。また、市内ではブルックリンの一部など、オーソドックスと呼ばれるかなり厳格にユダヤ教を信仰する地域があり、伸ばした髭、黒い帽子、くるくると伸ばしたもみあげ、全身黒ずくめの衣装の男性が多く街を歩いていたりして、驚かされます。



【ブルックリンの横断歩道を渡る正装したユダヤ系の男性】

＜ユダヤ系が多い業界、職種＞

欧州の歴史的背景からか、ユダヤ系が多い業界、職種というものもあります。主にサービス産業ですが、金融、メディア、映画などエンターテインメント、ファッションなどが有名で、医師、弁護士、教師などの専門職も多いとされています。政治、経済への多大な影響を与えているとされています。

＜メリー・クリスマスと言わないニューヨーク＞

クリスマスはイエス・キリストの誕生を記念する行事であるため、キリストを信仰しないユダヤ教徒、すなわちユダヤ系住民はクリスマスを祝いません。「メリー・クリスマス」はキリスト教信者同士であれば構いませんが、相手がユダヤ系であるかどうかは見た目では判断できないため、その配慮から、ニューヨークでは「メリー・クリスマス」という挨拶をビジネスや社交の場ではあまり使いません。これはもちろん人種のるつぼと称されるニューヨークですから、イスラム教や他の宗教への配慮でもあります。

＜ハッピーホリデー！＞

ではなんと挨拶するのでしょうか？11月末の感謝祭、クリスマス（ユダヤ教はハヌカ）、新年の時期を「ホリデー」と称し、人々は「Happy Holidays!（良いホリデーを!）」と挨拶し合います。こういった異教徒への配慮と報復ではない幸福を互いに祝い合う未来が、イスラエルやパレスチナにも訪れることを願ってやみません。皆様も良いホリデーを！